SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

児童養護の現場における解離と情動制御不全への対処性を向上するモデルの開発

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2024-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田辺, 肇 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000325

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：１３８０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０４２００

研究課題名（和文）児童養護の現場における解離と情動制御不全への対処性を向上するモデルの開発

研究課題名（英文）Model development to improve capabilities to cope with dissociation and affect dysregulation in a context of social care of children.

研究代表者
田辺　肇（Tanabe, Hajime）

静岡大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：６０３０２３６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：多くの児童養護施設職員や里親は解離の問題の理解と対応に困難をかかえている。簡明で直観的に理解可能なモデルを提示する事が有益であると考えられる。本研究の目的は、解離と情動調整に特に焦点をあてたそのようなモデルを開発することであり、そのために施設職員や里親が解離性の問題に気づき、理解し、対処する上で、障碍となることがらを検討した。示唆されたモデルのコアとなる概念は、ケアの見通しとケアの効力感であり、子どもや養育者のエンパワメントにも繋がる構造的暴力ないし権力の観点からの考察も行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
児童養護の文脈でみられる解離や背景にある情動調整の問題は、虐待などの影響で生じるが、多様な様相を示し個別性も大きく、現場を混乱させると同時に対応が難しい問題である。本研究は、そのような問題に対し、現場での対応性の向上に直接焦点をあてた実践的な研究であり、現場への成果の直接的な還元が期待される。

研究成果の概要（英文）：Many care workers and foster parents have great difficulties in managing and understanding dissociative problems. A simple and intuitively understandable model for the foster parents and residential care staffs may be helpful. Objective of this research is to develop such model especially focusing on dissociation and affect dysregulation, exploring the barriers and stepping stones for them to notice, understand, and cope with dissociative problems. One of the key concepts of the suggested model is an outlook and self-efficacy in care, which is discussed with the structural violence, or power background of empowerment of the care givers and children.

研究分野：心理学・精神保健福祉

キーワード：児童養護　子ども虐待　トラウマ　解離　情動調整不全　予防　里親　施設職員

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

児童養護の現場で見られる解離は、ストレス刺激をきっかけにした、現実との接触を失う「フリーズ状態」、予想不可能な発作的攻撃性、そのことについての後の健忘などの、体験の統合性の障害である。これは虐待等の不適切な生育環境による典型的な問題の一つであるが、その性質上、養育者や施設職員との関係を、一貫性を欠いた、著しく不安定なものにしてしまう。そのため児童養護の現場でもその対応に苦慮するものとなっており、コンサルテーション（指導助言）へのニーズも大きい。申請者もこれまでの研究成果を現場にフィードバックすべく努力を続けてきた。

しかし、解離への対処法は、養育者や施設職員に普及していない。その理由として、解離現象自体の不可解さに加え、解離の病理を扱った理論やモデルが、高度な専門知識を前提としているなど、精神医学や心理臨床等の基礎訓練を受けていない者には活用しにくいことが指摘できる。申請者の行った「早期解離性評定尺度―児童養護の日常場面で使える病的解離性予防のためのツール開発―」（2012 年基盤(C)）でも、作成された評定尺度の一定の有用性は示されたが、現場職員の既有の知識や経験如何によりバラツキがあることが示唆された。

そこで、本人・家族・施設職員・里親など、特別の基礎訓練を受けていない多くの当事者・関係者にとって分かり易く、比較的簡単な助言や研修（支援）を通して解離の問題に対処することが出来るようになるための、シンプルな説明モデル（理解のスキーマ）を提供することが必要であると考えた。ここで重要なことは、実際に当事者・関係者にとって、説明モデルが分かり易く、かつ実践的な有効性をもつかを、日本の児童養護の現場の現状を踏まえて確かめることだろう。

なお、子どもの解離の理解と支援については、障害単位（例えば、解離性同一性障害など）に焦点を当てるのではなく、解離とその周辺の問題、特にアタッチメントの問題を統一的に捉えた視点が欠かせない。近年では、trans-diagnositc な観点によるモデル化（複数の診断カテゴリに跨がって認められる病理的な傾向性とその背景メカニズムについて捉えるもの）が拡がりを見せている（たとえば、Brand & Lanius, 2014)。そして、多くのモデルで焦点が当てられているのが、情動制御不全である。申請者の作成した「早期解離性評定尺度」でも、病的解離性の発達の背景要因として抽出された側面である。

しかし、近年発展してきたこれらのモデルは、認知神経科学の知見を参照している場合が多く、心理士や福祉士でも、ましてや、里親や問題を抱えている子ども自身にとってはなおのこと理解が容易ではなく、そのため、問題の理解を促し、また、そのコントロール（対処）を可能にするために活用するには、不向きなものといわざるを得ない。

本研究では、これらの新たに発達してきた、臨床的に有益なモデルを参照しつつ、特に児童養護の現場で有用性の高い側面に焦点を絞り、また、適切なアナロジーを活用するなどして、現場で有効に機能するシンプルなモデルを作成することを目的としていた。その際、問題となっている現象の発生メカニズムを説明するだけでなく、その問題に対処する方法に繋がる（しかも、単なるハウツーでは多様な状況に対応する力にはならないので、現場や子どもの状況に応じて柔軟な対処法を導くような）視点を提供するものにする。具体的には以下の３点を検討する計画であった。

２．研究の目的

【１】解離・情動制御不全の問題に結びついている、乳幼児期の養育者との関わりの特徴を捉えるモデルを作成する。すなわち、「養育者との関係性への支援（発生予防）」に対して、担当者ならびに養育者にとって、問題に対処する方法に繋がる観点を提供するために有効であるかを、モデル評価の軸とする。

【２】解離・情動制御不全の問題に結びついている、早期小児期の特徴を捉えるモデルを作成する。この点については、すでに「早期解離性評定尺度」の開発によって一定の成果は得られている。しかし既述のとおり、“現場当事者の観点からみた“有用性は、充分とはいえない。

一方、施設職員や里親との日々の関わりを改善することで、解離・情動制御不全の問題をある

程度コントロールできる（あるいは、職員や里親の統制感を高め、前向きに関わりを工夫し、問題に対処していこうとする態度を醸成することができる）ことが、これまでの研究で明らかになっている（「里親と里子に対するアタッチメントに焦点をあてたプログラムの開発」（2012 年基盤(C)など）。

そこで、このモデルでは、養育者との厳しい関係の中で形成され、維持されている、子どもの解離・情動制御不全について、新たな関係の中でその問題の改善を狙う「早期小児期のアタッチメントを軸とした支援（固定化予防）」に対して、施設職員や里親にとって、問題に対処する方法に繋がる観点を提供するために有効であるかを、モデル評価の軸とする。

【３】早期小児期の問題が、青年期以降の社会適応の不全に結びつく経路について捉えるモデルを作成する。児童養護の領域で最も職員を悩ませているものの一つが、解離・情動制御不全の問題と結びついた、突発的な攻撃性の爆発、学業不振や意欲の低下を伴う社会不適応、それらと結びついた非行傾向への対応である。欧米の解離・情動制御不全の研究領域では、里親のみならず教員との関係にも焦点を当て、青年期の学業成績や学校適応の問題への予防的支援がホットな主題として採り上げられている。本課題でも青年期に至るまでの、問題の慢性化・複雑化の予防に寄与するモデルの作成にアプローチする。

３．研究の方法

本研究は、全体として目的【１】（発生予防・乳幼児期）【２】（固定化予防・幼児児童期）【３】（複雑慢性化予防・青年期）に対応する３つのフェーズにおける焦点を当てる。この３つのフェーズについて以下の手順で研究を進める。なお、具体的に関与するフィールドは、子育て支援、里親支援、乳児院・児童養護施設・情緒障害児短期治療施設などの施設処遇の現場である。

具体的には、以下の４つのフェーズで進める計画であった。

Ａ）現場の実際の把握
Ｂ）現場に即した効果の測定の指標の確定
Ｃ）仮のモデルの作成
Ｄ）最終的なモデルの検証

各フェーズに対応する現場につき、また、里親と施設養護とでは著しく異なる面があるため、それらの現場毎に、３つ以上のフィールドを確保する。その上で、Ｂ）の指標による現状をベースラインとして、モデル導入後の担当者の受け止めや子どもの状態の改善を確認する。

４．研究成果

社会状況、ならびに研究分担者の状況変化などの要因のため、Ｃ）およびＤ）の検討が著しく遅滞することとなった。研究期間の延長により完成を試みたが、現場での対面による実践的な研究活動の再開は、期間終了後にずれ込んだため、現段階ではＤ）の最終的な成果を得ていない。

しかし、Ｃ）における成果としていくつか示唆的な観点も得られており、今後、延長期間の間に準備を重ねてきたＣ）およびＤ）による検証のため現場での展開を進め、成果を還元する予定である。

現段階までの主な成果は以下の通りであった。

児童養護の現場で、施設職員や里親にとって、解離・情動調整不全の問題に直面した際の困難・困惑・対処可能性について、および、研修等が実践に結びつかない場合について、分析を行った（Tanabe & Tokuyama，2019）。

里親や施設職員との協働経験豊富な児童養護の文脈で活動してるスタッフに、主な主題として、①里親や施設職員が、子どもの解離（並びに情動調整不全）の問題について、気付き、理解し、対処する上で障壁・障害となるものは何か、②子どもの特別なニーズへの対応について訓練を受けて居ない里親や施設職員が、それらの問題を克服し、支援的で治療的な相互作用を発展させるための効果的な方法は何か、に焦点をあて、聞き取りを行った。その結果、里親や児童養護施設職員にとって、シンプルで直観的に理解可能な、情動調整不全と解離の問題に、現場で気付き、理解し、対応するための、説明モデルの鍵となる有用性の指標は、見通しがつくことと、ケアの効力感(efficacy)であった。

各インフォーマントの示した支援モデルの枠組みは、強調点の違いなど多様性を示したが、抽象的レベルでは極めて類似していた。すなわち、個別性、具体性を重要な要素としており、里親や施設職員の、あるいは、子どもや施設等の、特性や状況に応じて個別のアプローチを採ることを重要視していた。このことは、当初想定していた、誰にも分かり易いシンプルなモデルを開発し、それを展開していくという実践への展開の計画がならずしも適当では無いことを示してい

る。むしろ、各現場や職員、そして、彼らが支援している子どもの状況に応じて、個別、具体的な説明モデル、あるいは、理解と関与の枠組として機能する分かり易い「考え方」を呈示することと、そのための基本的なスタンス（指針）を示すものであった。

それらの主要な要素は以下の通りであった：

《具体性》「理論よりも具体的な事例史上の出来事を軸に理解を促す」「対処法については極めて具体的なものを提案する」

《個別性》「異なる対処法が必要となる問題については、各々異なる説明モデルを提案する」「各々の里親や施設職員は理解において、異なる経路や枠組みを持っており、それに合わせる必要がある」

《関係性》「子どもにとって安心できて大切な対象になることと同時に、安全と自律性を維持するために必要な枠を守り統制を行う」「スタッフ間の関係性も、権力関係によらず、相互信頼と相互尊重に基づくものである必要がある」

《効力感と見通し》「安定した関係性と脱統制不全は、セルフケアの効力感と日常生活の見通しをもたらす」「具体的な対処法による里親や施設職員のエンパワメントはケアの自己効力感と見通しをもたらし、それにより、支援的で治療的な相互作用に結びつく」

具体的な個別のケースに基づく対処の積み重ねが、他のケースに適用可能な視点の獲得に結びつき、それが、効力感と見通しに繋がる。そのような展開に結びつくような説明モデルを提示する事が、里親や施設職員のエンパワメントに繋がり、ひいては子どもの情動調整不全等の問題の安定化に繋がると考えられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計35件（うち査読付論文　19件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 Morishita, C., Inoue, T., Honyashiki, M., Ono, M., Iwata, Y., Tanabe, H., Kusumi, I., & Masuya, J.	４．巻 16
２．論文標題 Roles of childhood maltreatment, personality traits, and life stress in the prediction of severe premenstrual symptoms.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 BioPsychoSocial Medicine	６．最初と最後の頁 article No 11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s13030-022-00240-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Toyoshima, K., Inoue, T., Masuya, J., Fujimura, Y., Higashi, S., Tanabe, H., and Kusumi, I.	４．巻 49
２．論文標題 The mediating effects of cognitive complaints on the relationships between childhood maltreatment, trait anxiety, and functional disability in adult community volunteers.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Archives of Clinical Psychiatry	６．最初と最後の頁 19-25.
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15761/0101-60830000000332	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Nibuya, R., Shimura, A., Masuya, J., Iwata, Y., Deguchi, A., Ishii, Y., Tamada, Y., Fujimura, Y., Tanabe, H., , and Inoue, T.	４．巻 13
２．論文標題 Complex effects of childhood abuse, subjective social status, and trait anxiety on presenteeism in adult volunteers from the community.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Frontiers in Psychology	６．最初と最後の頁 1063637
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2022.1063637	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Terao,I., Morishita,C., Tamada,Y., Masuya,J., Fujimura,Y., Toda,H., Kusumi,I., Tanabe,H., & Inoue,T.	４．巻 2
２．論文標題 Affective temperaments mediate the effect of childhood maltreatment on bipolar depression severity.	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports	６．最初と最後の頁 e94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/pcn5.94	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 白井 千晶	4．巻 73
2．論文標題 親の複数養育の現状と課題について ： 里親委託率の上昇に伴う今後のあり方	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人文論集	6．最初と最後の頁 A1-A17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 白井 千晶	4．巻 73
2．論文標題 里親委託の現状と課題 ： 里親の共働き、 複数児受託、アドミッション・ケアに関する里親アンケート調査から	5．発行年 2022年
3．雑誌名 人文論集	6．最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 徳山美知代	4．巻 223
2．論文標題 社会的養護における包括的性教育――児童養護施設を中心に	5．発行年 2022年
3．雑誌名 こころの科学	6．最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中井（松尾）和弥・福井義一	4．巻 35
2．論文標題 日本人において小児期逆境経験が喫煙や飲酒・身体疾患・自殺企図に及ぼす影響	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Journal of Health Psychology Research	6．最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11560/jhpr.210903143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Lei Huijie、Chen Chong、Hagiwara Kosuke、Kusumi Ichiro、Tanabe Hajime、Inoue Takeshi、Nakagawa Shin	4．巻 13
2．論文標題 Symptom Patterns of the Occurrence of Depression and Anxiety in a Japanese General Adult Population Sample: A Latent Class Analysis	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6．最初と最後の頁 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyt.2022.808918	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Deguchi Ayaka、Masuya Jiro、Naruse Mayu、Morishita Chihiro、Higashiyama Motoki、Tanabe Hajime、Inoue Takeshi、Ichiki Masahiko	4．巻 Volume 17
2．論文標題 Rumination Mediates the Effects of Childhood Maltreatment and Trait Anxiety on Depression in Non-Clinical Adult Volunteers	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6．最初と最後の頁 3439～3445
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2147/NDT.S332603	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Masuya Jiro、Ichiki Masahiko、Morishita Chihiro、Higashiyama Motoki、Ono Miki、Honyashiki Mina、Iwata Yoshio、Tanabe Hajime、Inoue Takeshi	4．巻 Volume 18
2．論文標題 Childhood Victimization and Neuroticism Mediate the Effects of Childhood Abuse on Adulthood Depressive Symptoms in Volunteers	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6．最初と最後の頁 253～263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2147/NDT.S337922	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Nakazawa Hiroshi、Masuya Jiro、Tanabe Hajime、Kusumi Ichiro、Inoue Takeshi、Ichiki Masahiko	4．巻 Volume 17
2．論文標題 Interpersonal Sensitivity Mediates the Effects of Childhood Maltreatment on the Evaluation of Life Events and Anxiety States in Adult Community Volunteers	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6．最初と最後の頁 2757～2766
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2147/NDT.S310010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 白井千晶	4．巻 7
2．論文標題 非血縁的親子を形成した子どもの立場の人生構築と中期親子・親族関係：養子縁組 を例に	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本生殖心理学会誌	6．最初と最後の頁 34～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 白井千晶	4．巻 64号
2．論文標題 生みの親の尊厳と知る権利：生みの親・養子・養親三者の尊厳と権利のために	5．発行年 2021年
3．雑誌名 養子縁組と里親の研究―新しい家族	6．最初と最後の頁 61～70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 白井千晶	4．巻 72-2
2．論文標題 出生前検査とダウン症候群を事由にした養子縁組―自己責任論と他者養育―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 人文 論集（静岡大学）	6．最初と最後の頁 A33～A44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 安藤藍、白井千晶	4．巻 12
2．論文標題 ファミリーホームで暮らした元子どもの声	5．発行年 2022年
3．雑誌名 社会的養護とファミリーホーム	6．最初と最後の頁 60～75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中井（松尾）和弥、福井 義一	4．巻 61
2．論文標題 小児期逆境経験が身体症状による負担感に及ぼす影響	5．発行年 2021年
3．雑誌名 心身医学	6．最初と最後の頁 186～194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15064/jjpm.61.2_186	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Forslund Tommie、Granqvist Pehr、van IJzendoorn Marinus H.、（37名略）、Kondo-Ikemura Kiyomi、（19名略）、Zimmermann Peter、Feldman Ruth、Spangler Gottfried、Zeanah Charles H.、Dozier Mary、Belsky Jay、Lamb Michael E.、Duschinsky Robbie	4．巻 24
2．論文標題 Attachment goes to court: child protection and custody issues	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Attachment & Human Development	6．最初と最後の頁 1～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/14616734.2020.1840762	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 徳山美知代・田辺肇	4．巻 20
2．論文標題 児童養護入所児童に対する自立に向けた包括的性教育の検討―施設内虐待予防と性に関連する課題からの回復を目指す支援―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東京成徳大学臨床心理学研究	6．最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤清美	4．巻 68
2．論文標題 アタッチメント理論の我が国への適用	5．発行年 2020年
3．雑誌名 教育と医学	6．最初と最後の頁 12-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤清美	4．巻 67巻678号
2．論文標題 わが国においけるアタッチメント理論をめぐる問題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 青少年問題	6．最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Toyoshima,K., Inoue,T., Masuya,J., Fujimura,Y., Higashi,S., Tanabe,H., Kusumi,I.	4．巻 15(10)
2．論文標題 Structural equation modeling approach to explore the influence of childhood maltreatment in adults.	5．発行年 2020年
3．雑誌名 PLoS ONE	6．最初と最後の頁 e0239820 [1-15]
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0239820	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tanabe Hajime、Tokuyama Michiyo、Fukui Yoshikazu	4．巻 32
2．論文標題 Affect dysregulation and dissociation from child abuse trauma	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Health Psychology Research	6．最初と最後の頁 99～105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11560/jhpr.180611104	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Higashiyama Motoki、Hayashida Taito、Sakuta Keisuke、Fujimura Yota、Masuya Jiro、Ichiki Masahiko、Tanabe Hajime、Kusumi Ichiro、Inoue Takeshi	4．巻 Volume 15
2．論文標題 Complex effects of childhood abuse, affective temperament, and subjective social status on depressive symptoms of adult volunteers from the community	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6．最初と最後の頁 2477～2485
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2147/NDT.S209100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 徳山美知代	4．巻 22
2．論文標題 里親養育でのかかわり	5．発行年 2019年
3．雑誌名 チャイルドヘルス	6．最初と最後の頁 45～48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤清美	4．巻 28
2．論文標題 幼児期以降の子どもの育ちと親子のつながり	5．発行年 2019年
3．雑誌名 乳幼児医学・心理学研究	6．最初と最後の頁 73～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/3478798	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤清美	4．巻 68
2．論文標題 アタッチメント理論のわが国への適用	5．発行年 2019年
3．雑誌名 教育と医学	6．最初と最後の頁 12～20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 白井千晶	4．巻 70
2．論文標題 養子縁組の出自を知る権利および捜索・再会・交流をめぐる現状と課題	5．発行年 2019年
3．雑誌名 人文論集	6．最初と最後の頁 A65～A80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Uchida Yoshihiro、Takahashi Toshinao、Katayama Shigemasa、Masuya Jiro、Ichiki Masahiko、Tanabe Hajime、Kusumi Ichiro、Inoue Takeshi	4．巻 14
2．論文標題 Influence of trait anxiety, child maltreatment, and adulthood life events on depressive symptoms	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Neuropsychiatric Disease and Treatment	6．最初と最後の頁 3279～3287
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2147/NDT.S182783	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 徳山美知代	4．巻 22
2．論文標題 里親養育でのかかわり	5．発行年 2019年
3．雑誌名 チャイルドヘルス	6．最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kondo-Ikemura Kiyomi、Behrens Kazuko Y.、Umemura Tomo、Nakano Shigeru	4．巻 54
2．論文標題 Japanese mothers’ prebirth Adult Attachment Interview predicts their infants’ response to the Strange Situation Procedure: The strange situation in Japan revisited three decades later.	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Developmental Psychology	6．最初と最後の頁 2007～2015
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1037/dev0000577	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤清美	4．巻 22
2．論文標題 アタッチメントの個人差	5．発行年 2019年
3．雑誌名 チャイルドヘルス	6．最初と最後の頁 95-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 近藤清美	4．巻 198
2．論文標題 発達障害とアタッチメント	5．発行年 2018年
3．雑誌名 こころの科学	6．最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 白井千晶	4．巻 69
2．論文標題 児童養護施設における性的マイノリティ（LGBT）児童対応調査（ヒアリング調査）結果－インセスト・タブーと隠れたカリキュラム－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 人文論集	6．最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 白井千晶	4．巻 9
2．論文標題 社会的養護とみんなで子育て－フォスターから見える子育てのこれから	5．発行年 2019年
3．雑誌名 子育て研究	6．最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 Tanabe, Hajime
2．発表標題 Social care of children in Japan and Czech Republic: Residential predominance and limited-resources.
3．学会等名 32nd International Congress of Psychology @Prague, Czech Republic（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Tokuyama, Michiyo
２．発表標題 ADHD and attachment trauma among infants in social care in Japan.
３．学会等名 32nd International Congress of Psychology @Prague, Czech Republic（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Tanabe,H., & Tokuyama,M.
２．発表標題 Model development to improve capabilities to cope with dissociation and affect dysregulation in a context of social care of children.
３．学会等名 The 7th biannual conference of the European Society for Trauma and Dissociation.（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tokuyama,M., & Tanabe,H.
２．発表標題 Dissociation in infants in social care.
３．学会等名 The 7th biannual conference of the European Society for Trauma and Dissociation.（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 赤堀梓・田辺肇
２．発表標題 甘えられない環境が過剰同調性及び解離に及ぼす影響
３．学会等名 日本トラウマティック・ストレス学会第17回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 徳山美知代・小川翔大・原田邦江
２．発表標題 対人苦手意識に影響を与える2つの要因―セルフモニタリングと自尊感情の関連―
３．学会等名 日本心理学会第82会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 小川翔大・徳山美知代
２．発表標題 大学生の愛着スタイルが過剰適応に及ぼす影響
３．学会等名 日本心理学会第82会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 松尾和弥・大浦真一・島義弘・稲垣勉・福井義一
２．発表標題 児童版ECR-RSの青年期への適用―収束的妥当性と弁別的妥当性の検討―
３．学会等名 日本健康心理学会第31回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大浦真一・松尾和弥・稲垣勉・島義弘・福井義一
２．発表標題 潜在的な内的作業モデルの安定性
３．学会等名 日本心理学会第82会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 松尾和弥・大浦真一・島義弘・稲垣勉・福井義一
２．発表標題 被虐待経験と内的作業モデルが表情の誤検出量に及ぼす影響
３．学会等名 日本心理学会第82会大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大浦真一・松尾和弥・福井義一・張羽寧・高田豊司・森茂起
２．発表標題 児童養護施設の入所児童が抱える諸問題についての探索的研究8：性別と入所期間，施設タイプの効果.
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会第24回学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 松尾和弥・大浦真一・福井義一・張羽寧・高田豊司・森茂起
２．発表標題 児童養護施設の入所児童が抱える諸問題についての探索的研究7：同一施設における児童の特徴の類似性.
３．学会等名 日本子ども虐待防止学会第24回学術集会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計2件

１．著者名 リズ・トリンダー、ジュリア・フィースト、デイビッド・ハウ、白井千晶（監訳）、吉田一史美、由井秀樹	４．発行年 2019年
２．出版社 生活書院	５．総ページ数 256
３．書名 養子縁組の再会と交流のハンドブックーーイギリスの実践から	

１．著者名 白井千晶、江連麻紀	４．発行年 2019年
２．出版社 生活書院	５．総ページ数 208
３．書名 フォスター――里親家庭・養子縁組家庭・ファミリーホームと社会的養育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	福井　義一 (Fukui Yoshikazu) (20368400)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	
研究分担者	白井　千晶 (Shirai Chiaki) (50339652)	静岡大学・人文社会科学部・教授 (13801)	
研究分担者	徳山　美知代 (Tokuyama Michiyo) (70537604)	東京成徳大学・応用心理学部・教授 (32521)	
研究分担者	池邨　清美（近藤清美） (Kondo-Ikemura Kiyomi) (80201911)	帝京大学・文学部・教授 (32643)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関